

第34回中央委員会を開催



2月7日、静岡市内において、第34回中央委員会を開催し、2021年春季生活闘争の取り組みを柱に、真摯な討議を経て当面する活動方針を満場一致で決定しました。

当日は、コロナウイルス感染症予防に万全を期すとともに委員会時間を短縮し、コロナ禍により各地域や家庭等の事情により参加できない執行委員や代議員のため、ZOOMによるライブ配信し意思統一を図りました。



小笠原副委員長

小笠原副委員長による開会挨拶で始まり、委員会を代表して挨拶に立った大杉委員長からは、「2021年春季闘争・安全への取り組み・会社の経営状況・コロナ禍における取り組み・政策課題等」を述べられ、来賓のJR連合今井部長からは、「署名活動の取組・2021年春季闘争の取組・JR連合ビジョン・政策課題等」を述べられました。

続いて、小山中執より祝電メッセージを披露し、執行部より定期大会以降の活動報告・協約協定の締結・会計監査報告・今後の活動方針(案)が提起され、質疑応答では、2021春季闘争の取組を中心に多くの質疑が交わされました。

辻村書記長による総括答弁では、「JR連合の仲間は大変厳しい状況下に置かれている。今春闘は貨物鉄産労が先頭になり牽引していきたい。組織課題については、各地区が鋭意に取り組んでいることは承知しているが、まずは現場での業務態度や言動等で信頼を得る関係構築して頂きたい。安全面では、身近な場所で死亡労災が起きていることを強く認識して頂き、安全最優先の取り組みをお願いし、青函共用走行問題や鉄道設備強靱化の政策課題、衆議院解散総選挙等の政治対策については、JR連合と共に取り組んでいく。人事制度については、各地区からの不満を吸い上げ、組合員の声を会社に届けていきたい」と強く訴えました。

その後、委員会宣言(案)を読み上げ、閉会挨拶後、大杉委員長による団結ガンバローで会を終えました。



大杉委員長



小山中執



JR連合今井部長

- 「出せられた質疑」
- ・ 2021春季闘争の取組
 - ・ 安全問題
 - ・ 組織課題
 - ・ 政治対策
 - ・ ダイヤ改正
 - ・ 評価制度に対する不満
 - ・ コロナ禍の対策
 - ・ 65歳定年延長
 - ・ シニア社員の働き方
 - ・ 会社の経営状況
 - ・ PCR検査受診
 - ・ 働き方の改革

不安な時代。
安心な共済。



みんなで暮らしをガード
交運共済
全国交通運輸産業労働者共済生活協同組合



ZOOM配信